

議員提出議案第15号

2004年の年金改悪に反対する意見書

このことについて、下記のとおり、内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣に意見書を提出する。

平成15年12月19日

提出者 三朝町議会議員 遠藤 勝太郎  
賛成者 三朝町議会議員 福田 茂樹  
賛成者 三朝町議会議員 山田 道治  
賛成者 三朝町議会議員 知久馬 二三子  
賛成者 三朝町議会議員 横木 文雄

平成15年12月19日 原案可決

三朝町議会議長 藤井 享

2004年の年金改悪に反対する意見書

近年、医療・介護・福祉などの社会保障の後退によって、高齢者、年金生活者は大きな困難に直面しています。こうした中、政府は2003年度には、年金受給者を直撃する物価スライドの凍結を解除し、0.9%の給付の切り下げを行い、さらに2004年度も0.4%、そして以前の凍結分についても解除の計画があると聞きます。

さらに、政府は2004年に行う「年金改革」において、この先10年にもわたる保険料の引き上げと給付の切り下げを決めようとしています。

また、税制においても高齢者控除や公的年金控除の廃止・縮小を打ち出しています。

これらは、高齢者の生活を圧迫し、県民全体の将来不安を一層増大させ、消費の圧縮、景気のさらなる悪化につながり、地域経済にも大打撃をあたえるものと考えます。

しかも、国会において全会一致で法律の付則に決められた「国民年金の国庫負担を1/3から1/2引き上げ」についても、先のばししようとしています。そして、年金財源がないということで消費税の引き上げまで検討されています。これでは無年金・低年金者が増大し、公的年金への不信は深まるばかりです。

最後に、国連の「社会権規約委員会」が日本政府に「年金制度に最低年金を導入すること」と勧告していますが、まさに、日本の年金制度の根源的な問題が指摘されています。

以上の趣旨にかんがみ、以下の3項目について意見書を提出するものです。

記

- 1、2004年の年金改革にあたっては、保険料の引き上げ、年金の引き下げ

